

例えば何か賞に応募してみたら勢いで通っちゃったとか、それから、偉そうにしゃべっていただけだったのが、へえ、そうなんだなんて言っていたら、ちょっと記事書いてくださいなんて言われたりとか、商店街のところを一緒にやりましょうとかという話とか、どんどん、私ってそんなことを期待されちゃうのみたいなことが出てくる。これはよかったですね。

●丸の内プラチナ大学

実は今日、コーディネーターをやっていたいでいる松田さんと一緒に、今、僕がそうやって経験してきた内容をもっといろいろな人に経験していただきたいということで、丸の内プラチナ大学というのをプレで始めています。ですので、これは宣伝ですけれども、是非また後で、丸の内プラチナ大学で検索できる方は検索してみてください。昨日もやっていました。

本当の宣伝はこれです。私、とはいえ、お金を稼ぐ零細企業にならなきゃいけないので、いずれにせよ、志事創業社というのは仕えることをずっとやってきたのですけれども、志すことでビジネスをやっていきなというところで志事創業社をつくりましたので、是非一緒に、全然ビジネスじゃなくてもいいです、何かやってみたいという方がいたら、丸の内プラチナ大学か、あるいは直接私に御連絡いただきたいなということで、これが締めです。

ごめんなさい、一番肝心の締め。あと15秒ぐらい。これ、ここにいるつるっばげ兄ちゃん、兄ちゃんって私と同期だったんですけど、彼も辞めたんです。彼とは正直言って勘違いサラリーマン時代、競ってしまして、勝った負けた、出世街道どうだと。彼も結局辞めたんです。



辞めて、家族と全然つき合う時間がなかったんだけど、今、一緒に山梨でブドウ園から始まって、ブドウ酒をつくっています。私、これ、すごく感じがいいなと思って、今、大の仲よしなんですけども、彼の家に行ってお祝いしたときの写真なんですけど、とにかくチューニングしようと思うと、とにかく周りにまず合わせようと思っちゃうんですけど、まず自分の心に合わせるのが大事だなと彼から教わりました。なので、最後にこの写真で終わります。

ありがとうございます。



【松田】 白井さん、どうもありがとうございました。まず、外と合わせる前に、自分にチューニングを合わせるというのは非常に心に響く話だと思います。

それぞれのスピーカーに対して、会場から御質問を1つか2つ受け付けたいと思うんですけども、もし今、白井さんのご報告の中で質問等ある方、いらっしゃいますか。

どうぞ。

【質問者】 3×3 Laboというのは、どういうところなんですか。

【白井】 ありがとうございます。今の御質問は、3×3 Laboがどういう場所かということだったんですけども、コワーキングスペースというのは御存じですか。コワーキングというのは、いろいろな起業家の人たちが集まってそこでワークしている、いわゆる仕事をしているという感じなんですけれども、コワーキングスペースを超ゆるくしたような場所なんです。会員になればいいんですけど、会員も本当にただみたいな値段ですけど、みんな、ふらっとその時間に行って、仕事を一生懸命やってもいいし、隣の人とくっちゃべってもいいし、そこでいろいろな自主的なイベントとかも開催できるので、そこで例えば今日みたいな話をしたり、あるいは全然違った、これからのテクノロジー、どうなるんだなんて話をしている人がいたり、そこにオープンにどんどん参加できるというような、そんな場所です。土日は休みなんですけど。

【松田】 あと1つか2つ。 どうぞ。

【質問者】 志事創業社さんの事業の中心といたらいいのかわからないんですけど、丸の内プラチナ大学が中心となって、ここでいう志事というのは志のことと書いているようなんですが、具体的にどのようなことをなさっているのか。

【白井】 幾つかあって、例えば私自身は人と人をこうやってつないだりとか、人と人が連携するときのことをかなり今まで担当しているので、例えばですけども、会社の中で研修をやってもうまくいかないよといったときに、外部のところの人たちを入れてその研修の中身を変えたりですとか、あるいはキャリア相談みたいなところで、真面目に「私、どうしましょう」と言っているところよりも、今日みたいな話もそうですけど、別の視点を入れてあげることで変えたりだとかというところのプランニングをお手伝いしたりだとか、こんなようなことを具体的にはやっています。

ありがとうございます。

【中村】 皆様、こんにちは。中村昌子と申します。昌子と書いて、ナカムラヨシコ。この名前、珍しいと思うんですけども、大学院では20代の同期の皆さんから、愛称はキャッシーと呼ばれております。よろしくお願ひします。この後、『釣りバカ日誌』の黒ちゃん、ハマさんが出てくるので、ちょっと対抗してみました。



私の自己紹介なのですが、先ほど臼井さんがやはり30年以上勤められたというお話が出ておりましたが、私は厳密に言うと31年9か月、現場一筋で客室乗務員として働いてきました。それで、この分科会の副題が「失敗しないセカンドキャリアデビュー」、松田先生からもお話がありました。人生二期作・二毛作ということで、私、振り返るに、一番長かった乗務員の仕事が客室責任者という仕事です。いわゆるチーフパーサーというものです。15年ほどさせていただきました。この仕事は、今、セスナ機の事故で取り沙汰されていますけど、操縦席、機長と、地上と、そして客室間の情報交換、かけ橋を担う仕事だと振り返っております。そういう意味では、今、私がいろいろなプロジェクトでコーディネーターを担っているというのは、二期作、延長なのかなと思ったりしております。一方、大学院生、研究者の卵ですよ。おこがましいんですけども、それは二毛作。そういう意味で、先ほど松田先生がおっしゃったように、私の場合は二期作・二毛作の折衷バージョンじゃないかなと自己分析しております。

「挑戦するシニアが時代を開く」
—多世代が支え合う地域社会に向けて—
失敗しないセカンドキャリアデビュー
人生二期作・二毛作

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科
比較組織ネットワーク学専攻博士前期課程
中村昌子

自己紹介

1978年立教大学卒業後、航空会社の客室乗務員として32年間現場一筋、早期退職前の6年間は管理職としてマネジメントに携わる。

立教セカンドステージ大学本科・専攻科修了後、「立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科比較組織ネットワーク学専攻博士前期課程」在学2年目。

退職後のセカンドキャリア
・コーディネーター⇒二期作
・大学院生(研究者)⇒二毛作

松田先生から御提案いただいた、15分ということで話をかいつまんで凝縮したテーマ、この流れでいきたいと思います。退職後、リカレント教育の場合、立教セカンドステージ大学を選んだ理由。

立教セカンドステージ大学で得たもの。シニア世代で人気のある人・残念な人。主に定年退職後のお父さんですね。そして、仲間たちの修了後あれこれ。

大学院での学びや今後のライフワーク活動。そして最後に、同世代へのメッセージ。

この流れでいきたいと思います。ちなみに、この写真は東北の復興支援活動の中でちょっと立ち寄った狹鼻溪という船下りの場所です。

話しの流れ

- ・退職後、立教セカンドステージを選んだ理由
- ・立教セカンドステージ大学で得たもの
- ・シニア世代で人気のある人・残念な人
- ・仲間たちの修了後あれこれ
- ・大学院での学びや
今後のライフワーク活動
- ・同世代へのメッセージ



「母校で学び直しと再チャレンジ」

早期退職後、R社の就職支援サービス



【再就職系】：

ホテル・マンションのコンシェルジュ / 病院の受付案内/
保険会社の販売員/大学・専門学校講師
図書館館長 / 小学校校長

【独立系】

コーチングコーチ / マナー講師/キャリアカウンセラー
カラーコーディネーター/日本酒コーディネーター
ソムリエ/ ジャズシンガー など

母校で学び直し&再チャレンジの道を選択した。

●母校での学び直し

母校で学び直しと再チャレンジを私は選択しましたが、2010年にJAL、赤い翼を、早期退職後、R社、わかりますね、皆さん、リク、R社です、の就職支援サービスを受けました。再就職をした方々の例としては、ホテル・マンションのコンシェルジュ、病院の受付案内、保険会社の販売員、そして大学専門学校の講師など。ちょっと珍しい例では、司書の資格を持っていた方ですかね、図書館の館長、都内ですけれども、あと、地元に戻って、新潟県に戻って小学校の校長先生になったという方がいらっしゃいます。そして一方、独立系ですと、退職前から資格を取得していて、コーチングコーチ、私自身もそうなんですけど、マナーの講師、あと、キャリアカウンセラー、カラーコーディネーター、日本酒コーディネーター、そして、ソムリエ。私がこの独立系で最もおもしろいバージョンだなと思うのは、室長だった方が、ジャズシンガーで首都圏のライブハウスで活躍しています。

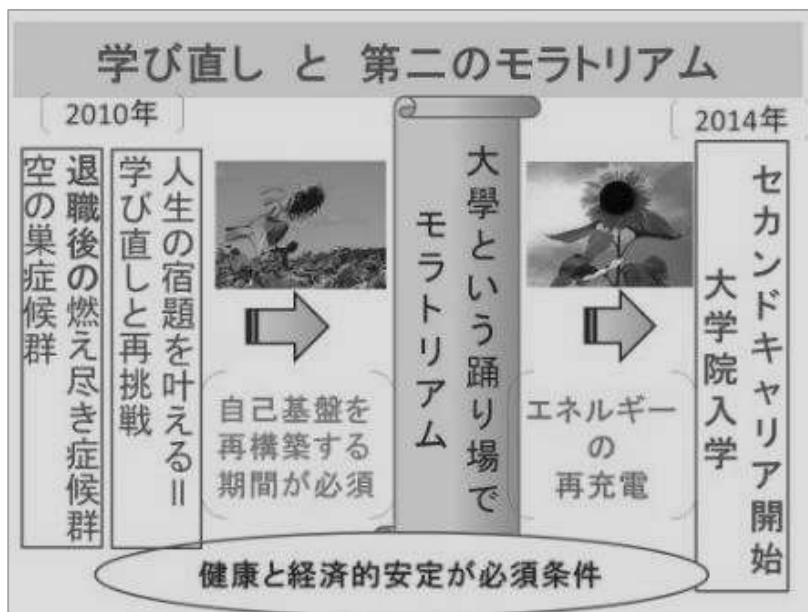
●学び直しと第2のモラトリアム

そんな流れの中で、私自身は、母校立教大学で学び直しと再チャレンジの道を選択したわけです。学び直しと第2のモラトリアム。2010年、私、臼井さんの画像にもちょっと似ているなと思ったんですが、早期退職のとき、皆さん、宝くじ当たった人いらっしゃいますか。その例は……、すごいですね、松田先生。私は、最後の6年間、末端管理職というか、現場監督のマネジャー業務をしていたのですが、その間に、JASとの企業統合と経営破綻を経験しました。

2010年、いろいろ労務とかも担当して、エギゾウステッド exhausted まさに退職後の燃え尽き症候群、ヒマワリに例えるとこのようにベランダに出した干からびたヒマワリみたいになった。まずは自己基盤を再構築することが何よりも必須でした。

あともう1つは、私、1978年、立教大学出身、文学部英米文学科を卒業したのですが、地方の田舎娘だったもので、東京の生活に慣れるのに精いっぱい、とても勉強どころじゃなかったんです。その自分の「勉強しなかった」というトラウマと、あと、立教大学の文学部英米文学科は、論文は必要なくて、ゼミもなかったんです。論文を書くこととゼミを経験したかった。それが学び直しと再挑戦の原動力となりました。

大学という踊り場でモラトリアム、「私、もう一度勉強しているの」と言うと、昔の友達に「あら、優雅ね。あなた、いいわね。お金と時間のある人じゃなきゃできないわね」と言われます。もちろんそうなのですが、やはり同じお金があるんだったら、世界一周の船旅に出る人もいれば、不動産を買う人もいるだろうけど、でも、私は微々たる財産で自分に投資したかった。正直、そういうところです。現在、そのモラトリアムの学びの場も経て、今は「立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科」というところで、社会学を探究しております。



●立教セカンドステージの大学の概要

立教セカンドステージの大学の概要ですが、2007年、団塊世代が大量に定年退職が始まりました翌年に設立されました。目的は、学び直しと再チャレンジ、そして異世代共学の場です。平均年齢は大体62歳前後と言われています。その当時、私は57歳だったので、ギャルでした。あまりモテませんでしたけれども、ギャルでした。

立教セカンドステージ大学の概要

〔 2007年～ 団塊世代大量に定年退職が始まる 〕

1. 設立: 2008年4月 生涯学習の「場」
2. 目的: 「学び直し」「再チャレンジ」「異世代共学」
3. 構成: 50歳以上の男女・入学進学試験制
 本科(1年)100名・専攻科(1年)53名
 ・平均年齢62歳 (13年度)
4. 科目: 必修・選択・ゼミ(修了論文作成)

* 学校教育法第102条の「履修証明書」交付

これは卒業写真。私は文学部出身なので、社会学の学びがしたかったんです。これは木下康仁先生という、M-GTAという質的研究の権威の先生なんですが、その先生のゼミで2万6,000字の修了論文を書いて、ゼミも経験いたしました。修了論文を書いて、ゼミも経験して、人生やり直しの宿題を果たしたのは達成感がありますが、何よりもこの立教セカンドステージ大学で得たものは仲間たちです。今日も何人か来てくださっています。

左上は、ポスト団塊世代の「5期生ぎゃるず」と称しています。日本の世代区分は、学術的な区分ではなく、団塊世代の後、私たちポスト団塊世代、その後、バブル世代、ロスジェネ世代、そして、ゆとり、さとり世代というのが大体メディア的な区分です。私たちは団塊世代の物差しで思春期を送って、でもちょっと違うなというところがある「元祖白け世代」と言われた「ポスト団塊世代」です。



●人生の第2章につながる学びとは？

右下の写真は、5期生、今日も何人かいらっしやっていますけれども、5期生の1人が川越で助産婦さんを40年間やった方が「ほっとサロンむさし野」というコミュニティーサロンをオープンして、彼女の修了論文のテーマでもあったんですけど、そこに同期でお祝いにいったところです。50代から80代です。右手前の男性は、マスターズのウェートリフティングの選手です。世界選手権にも出た方です。

何も私たちは大学の雰囲気味わいたくて立教セカンドステージ大学に入ったのではなく、やはりセカンド、人生第2章につながるような学びを得るために学び直しました。5期ぎゃるずの例の場合、私たちは50代後半から60代前半なのですが、公立中学校の相談員、今日いらしていますけれども。それから、台東区で生活困窮家庭の子育て支援をしているNPOを設立したりとか、生きづらさを抱えた人の電話相談ボランティア、固有名称は出せないんですけども。あと、障害者就労支援センターのコーディネーター、子育てママ塾を主宰したり、あと、18歳から45年間ずっと同じ銀行で働き続けて、今は大分報酬も縮小されましたが、遺言書作成相談部に勤務している63歳の女性、今はキャリアカウンセリングの勉強をしています。そして私。これが「ぎゃるず」のメンバーです。

●人気のある人、残念な人

定年退職したお父さん、人気がある人とそうでない人じゃなくて、すごく人気がある人と、素敵なんだけど、ちょっとここが残念だなと思う人の境界線は何があるのか。まず人気のある人は、傾聴力が高く、双方向の言葉のキャッチボール、メールでもそうですよね、双方向のキャッチボールができる人。あと、日本では「察する文化」なので、「言わなくたって感謝の気持ちは伝わるだろう」と皆さん、お父さんたちは思っている。伝わらないんです。感謝、ねぎらいの言葉がかけられる人。こういう方は好かれます。あと、お父様たちはスーツ姿はすごく素敵なのですが、オフの姿というか、カジュアルファッションとか旅行のファッションなど、ガクンと、ダサくなるみたいな、いまイチだなどと思う、そういう方がいたりする。あと、引き続き挑戦を続ける人、人生を謳歌する人はすてきですね。例えば学生時代から音楽をやっていて、交響楽団でチェロを弾いたりとか、ライブハウスでサクソを吹いたりとか、短歌・俳句をやったり、それから旅行したり、カメラに集中したり、何か自分の好きなものに集中している人はすてきだと思います。一方、ちょっと残念だなと思うのは、皆さん、結構そうそうたるメンバーの人なんです。企業では役職についていたりとか、小学校、中学校、高校の先生を40年間勤めた人とか、あとは公務員でも上のほうの人だったりとか、尊敬されて当然の立場が長かったので敬われて当然、それがリセットされていない人が結構いる。あと、知らないうちに俺々タイプ。若い方たちのコミュニケーションでも、いつの間にか自慢話になっちゃったりする。